

第3章 本県の医療の概況

1 人口等の概況

(1) 地勢等

本県は、本州の最北端に位置し、三方を海に囲まれ、津軽半島及び下北半島で陸奥湾を抱いたような地形であり、総面積は9,645.56km²で国土の2.6%に当たり、全国第8位の広さを有しています。山地と河川によって形成された平野部には、青森市、弘前市、八戸市等を中心とした生活圏域が形成されています。また、世界遺産である白神山地や十和田八幡平国立公園をはじめとする自然公園や数多くの温泉等豊かな自然環境に恵まれています。

本県の気候は、本州最北の緯度にあるため、概して冷涼型ですが、県の中央部に位置する八甲田山をはじめとする奥羽山脈が県内を二分しているなど、海域や地形が複雑なことから、同じ県内でも、地域によって気候が大きく異なります。中でも、冬季における津軽地方の大雪と、夏季における太平洋側を中心とした偏東風（ヤマセ）が代表的な違いとなっています。

冬は、冷たく湿った空気が奥羽山脈にぶつかり津軽地方に雪を降らせる一方、太平洋側は、奥羽山脈が障壁となって乾燥した晴天の日が多いのが特徴です。

夏は、冷たく湿った偏東風（ヤマセ）が吹くため、太平洋側で低温・多湿の日が多くなります。



(2) 交通

道路は、青森市を終点とする国道4号及び同7号が、本県の生活・産業の大動脈となっているほか、東北縦貫自動車道弘前線及び同八戸線により、東京方面と結ばれています。

鉄道は、新青森駅から東北新幹線により東京方面と、北海道新幹線により北海道と結ばれているほか、JR奥羽本線・八戸線・五能線・大湊線・津軽線、青い森鉄道線、IGRいわて銀河鉄道線、弘南鉄道大鰐線・弘南線、津軽鉄道線が、それぞれ県民の通勤、通学の重要な手段となっています。

航空は、国内線が青森空港と札幌（新千歳）、東京（羽田）、名古屋（小牧）、大阪（伊丹）の4空港間、三沢空港と札幌（丘珠）、東京（羽田）、大阪（伊丹）の3空港間で就航しているほか、国際線は青森空港から韓国・ソウル（仁川）と中国・天津へ定期便が就航しています。

船舶は、県内では、青森港と脇野沢・牛滝・福浦・佐井港、蟹田港と脇野沢港が結ばれているほか、県外とは、青森港と函館港、八戸港と苫小牧港、大間港と函館港が結ばれています。

（3）人口

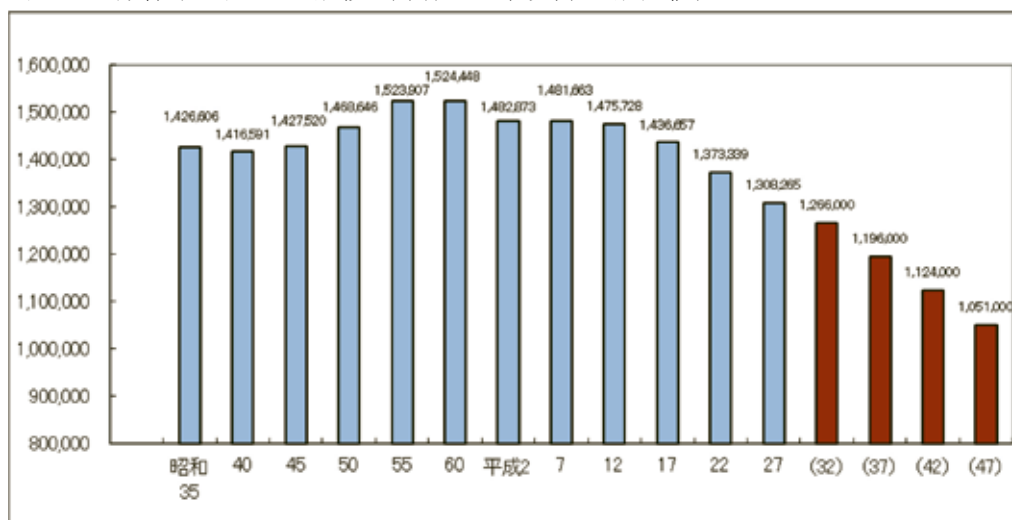
本県の人口は、平成27年10月1日現在、1,308,265人（国勢調査）で、男性614,694人（47.0%）、女性693,571人（53.0%）となっており、全国の男性48.7%、女性51.3%に比べ女性の構成比率が高くなっています。

人口の推移をみると、昭和40年以降増加傾向で推移していましたが、昭和55年～60年で横ばいとなり、昭和60年以降は減少傾向で推移しています。将来人口については、今後大きく減少していくものと見込まれています。（図1）

年齢別人口割合の推移をみると、15歳以上65歳未満の人口の割合及び15歳未満人口の割合が低下する一方、65歳以上の人口の割合が上昇しており、少子・高齢化が進行しています。今後、ますますこの傾向が顕著になると見込まれています。（図2）

年齢階級別・男女別人口をみると、35歳～39歳の年齢層よりも上の年齢階級において、女性が男性よりも人口が多く、特に60歳以上の年齢層では大きく上回っています。（図3）

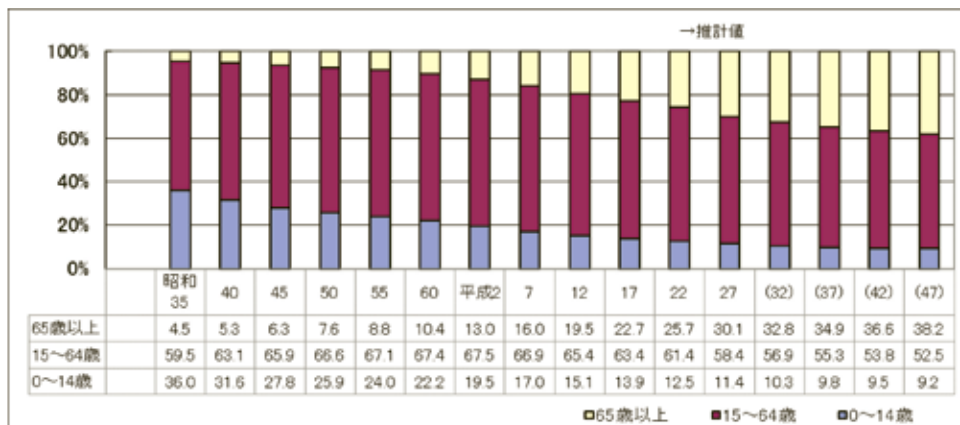
図1 青森県の人口の推移（平成32年以降は推計値）



資料：総務省「平成27年国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成25年3月推計・中位推計）

図2 青森県の年齢（3区分）別人口の割合の推移（平成32年以降は推計値）

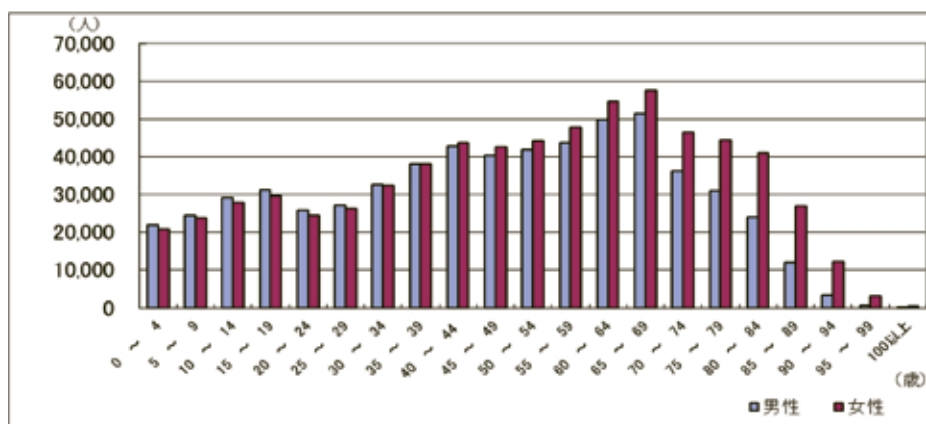


資料：総務省「平成27年国勢調査」

国立社会保障・人口問題研究所「日本の都道府県別将来推計人口」（平成25年3月推計・中位推計）

※ 割合の合計については、年齢階級別に四捨五入した結果を表示しているため、100%にならない場合がある。

図3 青森県の年齢階級別・男女別人口



資料：総務省「平成27年国勢調査」

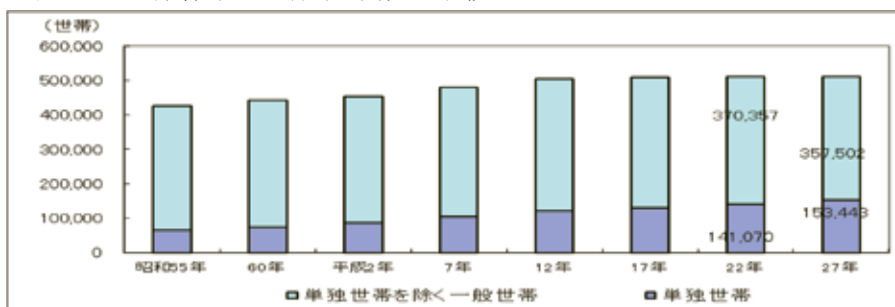
(4) 世帯

本県の一般世帯数は、平成27年10月1日現在、510,945世帯（平成27年国勢調査）で、平成22年と比べ482世帯(0.1%)の減となっており、このうち単独世帯は153,443世帯で12,373世帯(8.8%)の増となっています。（図4）

一般世帯の世帯人員割合をみると、単独世帯の割合では、本県は30.1%と全国平均の34.5%に比べて低く、逆に2人以上の世帯数の割合では、4人世帯を除き全国平均を上回っています。（図5）

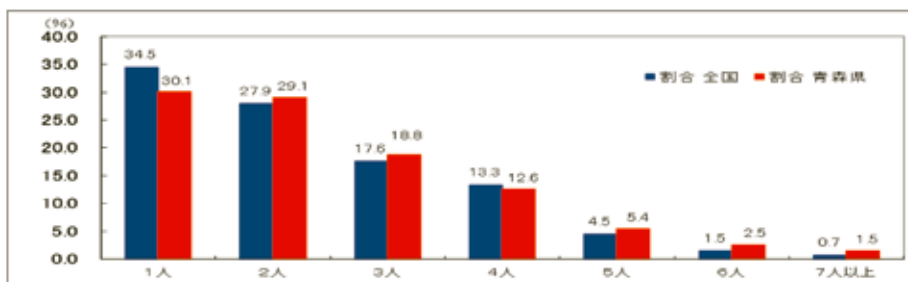
一般世帯の家族類型別割合をみると、単独世帯が30.1%（平成22年対比2.5ポイント増）、夫婦のみの世帯が19.2%（同0.6ポイント増）、夫婦と子どもから成る世帯が22.7%（同1.2ポイント減）、ひとり親と子どもから成る世帯が11.3%（同0.2ポイント増）、その他の世帯が16.3%（同2.5ポイント減）となっています。（図6）

図4 青森県の一般世帯数の推移



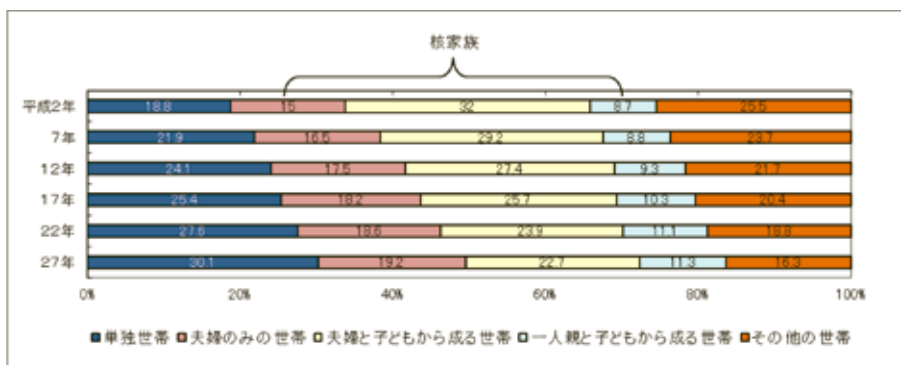
資料：総務省「平成27年国勢調査」

図5 青森県の一般世帯の世帯人員割合



資料：総務省「平成27年国勢調査」

図6 青森県の一般世帯の家族類型別割合の推移



資料：総務省「平成27年国勢調査」

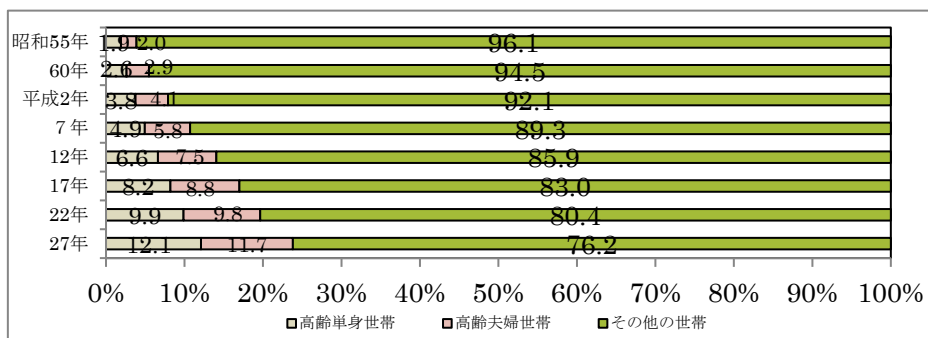
また、本県の高齢単身世帯（65歳以上の者1人のみの世帯）及び高齢夫婦世帯（夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦一組の世帯）は、平成27年10月1日現在、それぞれ61,580世帯（昭和55年対比660%増）、59,719世帯（昭和55年対比606%増）と増えており（表1）、一般世帯に占める高齢単身世帯、高齢夫婦世帯の割合も年々高くなっています。（図7）。

表1 青森県の高齢単身世帯数及び高齢夫婦世帯及び割合

年	一般世帯数	高齢単身世帯数	高齢夫婦世帯数	その他の世帯数	一般世帯数に占める	
					高齢単身の割合	高齢夫婦世帯の割合
昭和55年	426,840	8,099	8,455	410,286	1.9	2.0
60年	442,096	11,560	12,649	417,887	2.6	2.9
平成2年	453,425	17,044	18,776	417,605	3.8	4.1
7年	480,829	23,758	27,743	429,328	4.9	5.8
12年	504,373	33,337	37,590	433,446	6.6	7.5
17年	509,107	41,801	44,764	422,542	8.2	8.8
22年	511,427	50,537	49,933	410,957	9.9	9.8
27年	509,241	61,580	59,719	387,942	12.1	11.7

資料：総務省「国勢調査」

図7 一般世帯に占める高齢単身・高齢夫婦・その他の世帯別の割合推移



資料：総務省「国勢調査」

(5) 人口動態

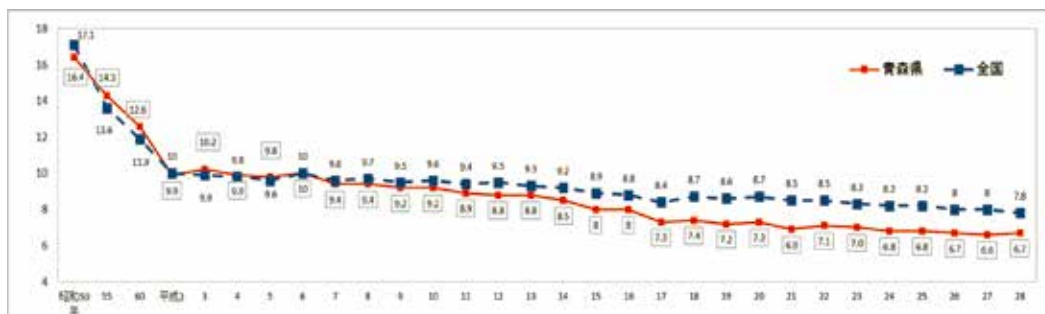
① 出生率と死亡率

ア 出生率

本県の出生率は減少傾向にあり、全国との比較（人口千対）では、平成28年は6.7で全国の7.8を1.1ポイント下回っています。（図8）

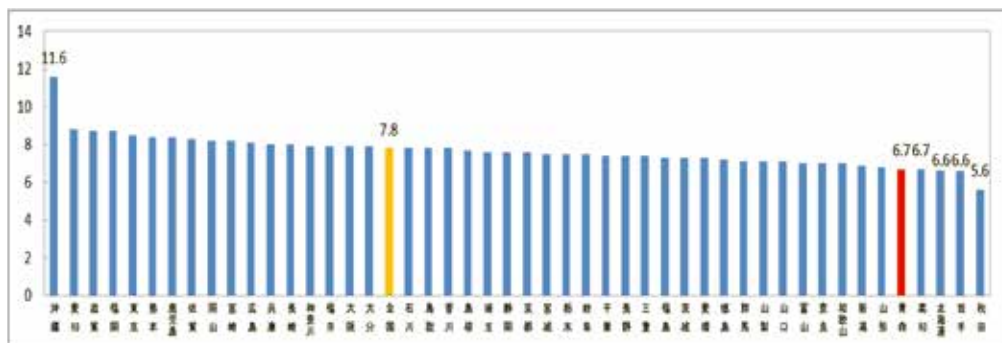
この出生率は秋田県（5.6）、北海道、岩手県（6.6）に次いで低いものとなっています。（図9）

図8 出生率の年次推移（人口千対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図9 全国の出生数の状況（人口千対）

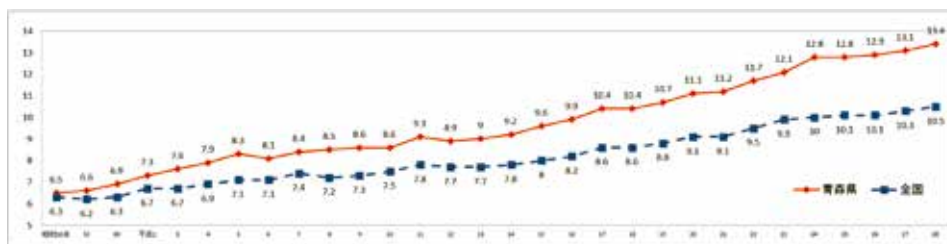


資料：厚生労働省「平成28年人口動態統計」

イ 死亡率

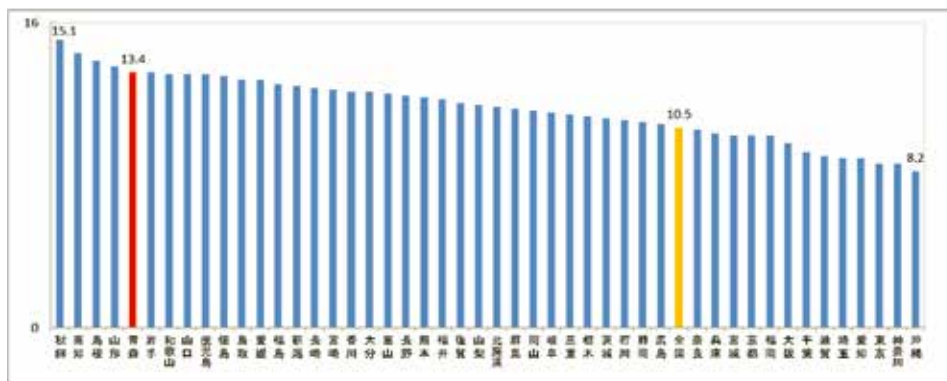
本県の死亡率は増加傾向にあり、また全国値を上回って推移しています。平成28年は人口千対13.4で全国の10.5を2.9ポイント上回っており、また全国的に見ても高い方となっています。（図10、11）

図10 死亡率の年次推移（人口千対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図11 全国の死亡率（人口千対）の状況



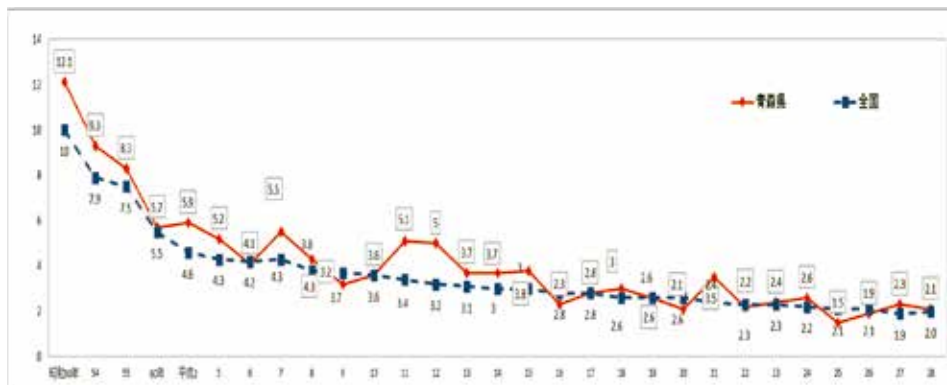
資料：厚生労働省「平成28年人口動態統計」

ウ 乳児死亡率

本県の乳児死亡率は、昭和54年に出生千対9.3と初めて10.0を下回り、その後、徐々に減少しています。

平成28年は2.1で、全国平均を0.1ポイント上回りましたが、全体として改善傾向にあります。（図12）

図12 乳児死亡率の年次推移（出生千対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

エ 新生児死亡率

本県の新生児死亡率は、乳児死亡率と同様、徐々に減少しています。

平成28年は出生千対0.9で、全国と同率となり、全体として改善傾向にあります。（図13）

図13 新生児死亡率の年次推移（出生千対）

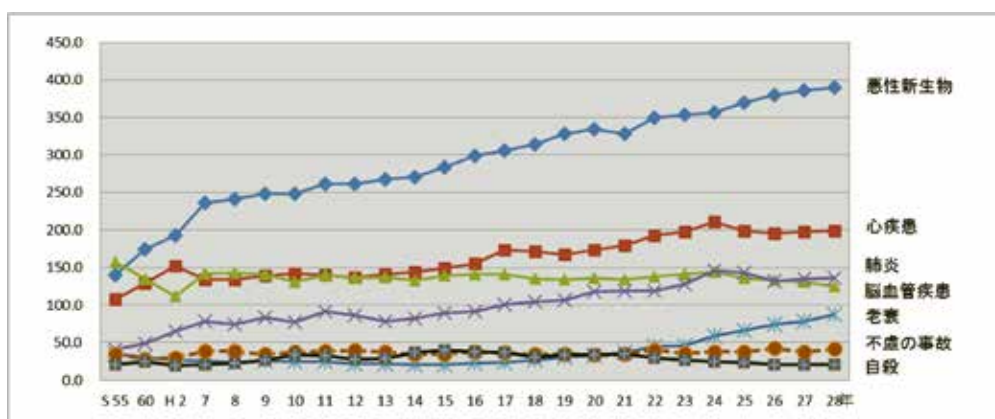


資料：厚生労働省「人口動態統計」

② 死因

本県の主要死因をみると、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患等の生活習慣病が上位を占めています。特に、悪性新生物の死亡率は増加を続け、昭和57年から脳血管疾患を上回り、死亡順位の第1位となっています。（図14）

図14 青森県の主要死因死亡率の年次推移（人口10万対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

ア 悪性新生物

悪性新生物による死亡率は、増加傾向にあり、平成28年では全国を91.9ポイント上回っています。（図15）

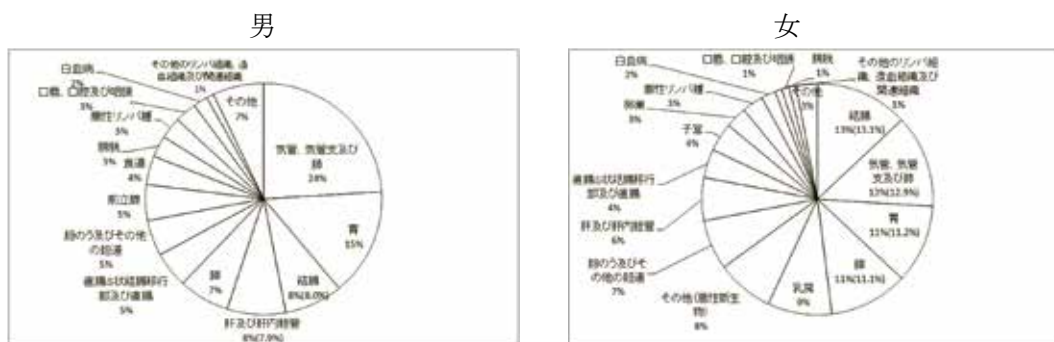
図15 悪性新生物による死亡率の年次推移（人口10万対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

本県における悪性新生物の男女別部位別の死亡状況をみると、男性では第1位が気管、気管支及び肺、第2位が胃、第3位が結腸となっており、女性では、第1位が結腸、第2位が気管、気管支及び肺、第3位が胃となっています。（図16）

図16 悪性新生物の部位別死亡割合

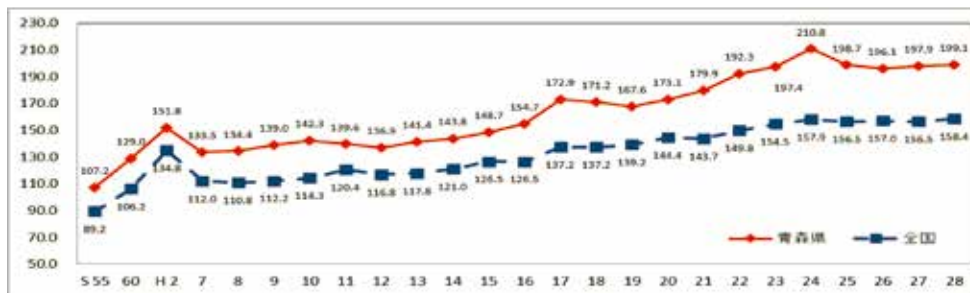


資料：厚生労働省「平成28年人口動態統計」

イ 心疾患

心疾患による死亡率は増加傾向にあり、平成28年では全国を40.7ポイント上回っています。(図17)

図17 心疾患死亡率の年次推移(人口10万対)



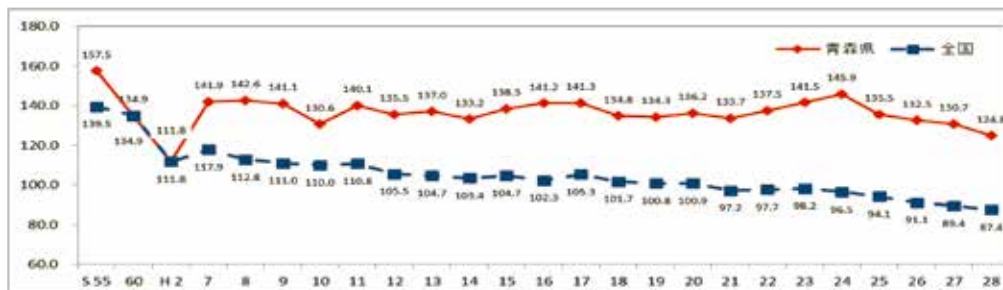
資料：厚生労働省「人口動態統計」

注 平成6・7年の心疾患の減少は、死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)における「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。

ウ 脳血管疾患

脳血管疾患の死亡率は、本県は近年減少しているものの全国より高く推移しており、平成28年では全国を37.4ポイント上回っています。(図18)

図18 脳血管疾患死亡率の年次推移(人口10万対)

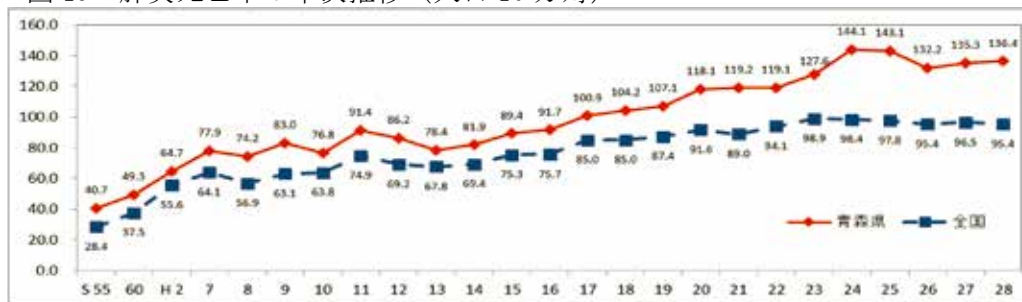


資料：厚生労働省「人口動態統計」

エ 肺炎

肺炎の死亡率は、本県は全国に比べ高い状況で推移しており、平成28年では全国を41.0ポイント上回っています。(図19)

図19 肺炎死亡率の年次推移（人口10万対）

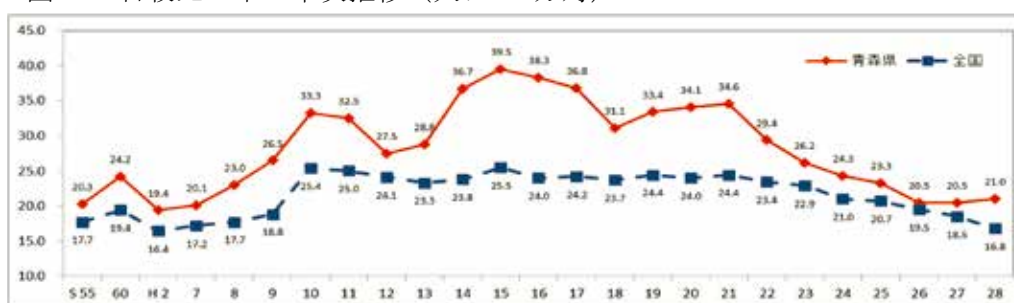


資料：厚生労働省「人口動態統計」

オ 自殺

自殺の死亡率は、増加と減少を繰り返し、全国に比べて高い状況で推移しており、平成28年では全国を4.2ポイント上回っています。（図20）

図20 自殺死亡率の年次推移（人口10万対）

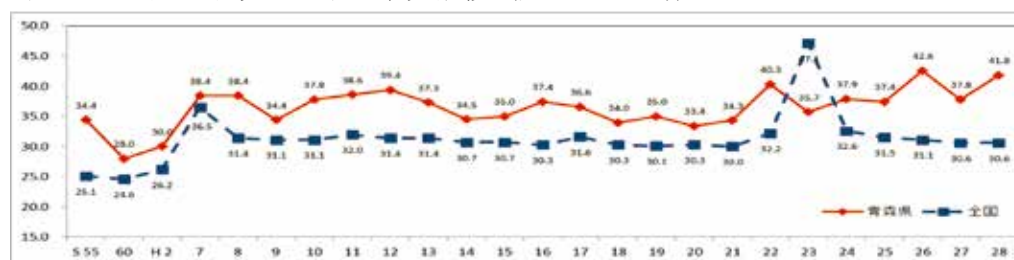


資料：厚生労働省「人口動態統計」

カ 不慮の事故

不慮の事故の死亡率は、全国に比べて高い状況で推移しており、平成28年では全国を11.2ポイント上回っています。（図21）

図21 不慮の事故死亡率の年次推移（人口10万対）



資料：厚生労働省「人口動態統計」

キ 年齢階級別の死因

年齢階級別の死因をみると、50歳から79歳までの各階層において悪性新生物、心疾患（高血圧性を除く）、脳血管疾患が上位3位を占めています。

また、15歳から64歳までの各階層において、「自殺」が上位となっています。（表2）

表2 年齢階級別の死因（平成28年）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
総数	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	肺炎	脳血管疾患	脳梗塞
	5,035 390.3	2,582 200.2	1,766 136.9	1,706 132.3	1,035 80.2
0~4歳	循環器系の先天奇形	不慮の事故	その他の感染床及び寄生虫	周産期に特異的な呼吸障害	(同順位の死因が複数あるため省略)
	5 11.6	3 7.0	3 7.0	3 7.0	—
5~9歳	心疾患(高血圧性を除く)	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害			
	1 2.13	1 2.13			
10~14歳	自殺				
	1 1.8				
15~19歳	自殺	不慮の事故	悪性新生物	(同順位の死因が複数あるため省略)	(同順位の死因が複数あるため省略)
	5 8.1	5 8.1	2 3.2	—	—
20~24歳	自殺	不慮の事故	悪性新生物	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
	14 29.2	8 16.7	4 8.3	2 4.2	2 4.2
25~29歳	自殺	不慮の事故	悪性新生物	(同順位の死因が複数あるため省略)	(同順位の死因が複数あるため省略)
	8 15.7	5 9.8	5 9.8	—	—
30~34歳	自殺	悪性新生物	その他の神経系の疾患	心疾患(高血圧性を除く)	(同順位の死因が複数あるため省略)
	11 17.5	5 7.9	3 4.8	3 4.8	—
35~39歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	自殺	不慮の事故	脳血管疾患
	20 27.4	9 12.3	7 9.6	7 9.6	5 6.9
40~44歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	自殺	脳血管疾患	不慮の事故
	29 33.7	15 17.4	15 17.4	13 15.1	7 8.1
45~49歳	悪性新生物	自殺	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	不慮の事故
	59 68.6	25 29.1	21 24.4	14 16.3	14 16.3
50~54歳	悪性新生物	自殺	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	不慮の事故
	119 143.4	29 34.9	28 33.7	27 32.5	13 15.7
55~59歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	不慮の事故	自殺
	194 213.2	47 51.7	39 42.9	23 25.3	19 20.9
60~64歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	自殺	肺炎
	421 416.8	89 88.1	80 79.2	31 30.7	29 28.7
65~69歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	不慮の事故	肺炎
	581 496.6	144 123.1	95 81.2	51 43.6	47 40.2
70~74歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	肺炎	その他の呼吸器系の疾患
	642 802.5	158 197.5	146 182.5	88 110.0	58 72.5
75~79歳	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	脳血管疾患	肺炎	その他の呼吸器系の疾患
	790 1053.3	284 378.7	202 269.3	195 260.0	91 121.3
80歳以上	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	肺炎	脳血管疾患	老衰
	2,164 1677.5	1,780 1379.8	1,377 1067.4	1,083 839.5	997 772.9
65歳~(再掲)	悪性新生物	心疾患(高血圧性を除く)	肺炎	脳血管疾患	老衰
	4,177 1041.7	2,366 590.0	1,707 425.7	1,526 380.6	1,027 256.1

数字 上段：死亡数(実数) 下段 死亡率(人口10万対)

資料：厚生労働省「平成28年人口動態統計」

③ 平均寿命

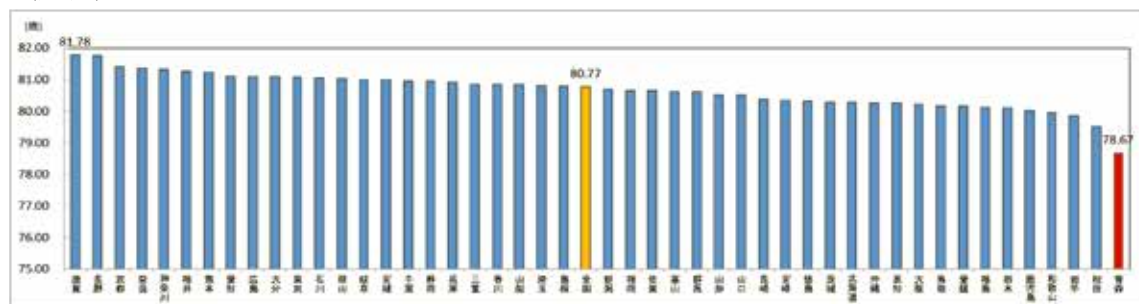
本県における平均寿命は、昭和45年には男性67.82歳、女性74.68歳で、その後年々延びて平成27年には男性78.67歳、女性85.93歳となっていますが、全国順位は最下位となっています。（表3）

表3 平均寿命の推移

項目 年次	青森県					全国		
	男		女		男女差 (女-男)	男	女	男女差 (女-男)
	平均寿命 歳	順位 位	平均寿命 歳	順位 位		平均寿命 歳	平均寿命 歳	
昭和45年	67.82	45	74.68	32	6.86	69.84	75.23	5.39
50	69.69	47	76.50	35	6.81	71.79	77.01	5.22
55	71.41	47	78.39	44	6.98	73.57	79.00	5.43
60	73.05	47	79.90	46	6.85	74.95	80.75	5.80
平成2	74.18	47	81.49	45	7.31	76.04	82.07	6.03
7	74.71	47	82.51	46	7.80	76.72	83.22	6.50
12	75.67	47	83.69	47	8.02	77.71	84.62	6.91
17	76.27	47	84.80	47	8.53	78.79	85.75	6.96
22	77.28	47	85.34	47	8.06	79.59	86.35	6.76
27	78.67	47	85.93	47	7.26	80.77	87.01	6.24

資料：厚生労働省「都道府県別生命表」

図22 都道府県別平均寿命（平成27年）
（男性）



2 保健医療体制の概況

(1) 医療関係施設

① 病院

病院は、病床数が20床以上の医療を提供する施設で、県内には、平成28年10月1日現在、96施設が設置されています。

人口10万対の病院数は7.4で、全国の6.7より若干上回っています。

開設者別にみると、市町村の開設が、全国7.5%に対して、本県は24.0%と多いのが特徴となっています。（表4）

表4 設置主体別病院数

区分	総数	国	都道府県	市町村	日赤	公的医療機関 その他	社会保険 関係団体	公益法人	医療法人	社会福祉法人	医療生協	その他の法人	個人
青森県	96 (7.4)	8	3	23	1	—	—	5	37	1	4	10	4
全国	8,442 (6.7)	327	201	634	92	286	53	230	5,754	198	84	343	240

()は人口10万対

資料：厚生労働省「平成28年医療施設調査」

② 診療所

診療所は、病床数が19床以下の医療を提供する施設で、県内には、平成28年10月1日現在、一般診療所884施設（うち有床診療所157施設）、歯科診療所548施設が設置されています。

人口10万対の施設数は、一般診療所が68.4で、全国の80.0を下回っていますが、有床診療所は12.1で、全国の6.0を上回っています。また、歯科診療所は42.4で、全国の54.3を下回っています。（表5）

表5 診療所数

区分	一般診療所		歯科診療所
		有床	
青森県	884 (68.4)	157 (12.1)	548 (42.4)
全国	101,529 (80.0)	7,629 (6.0)	68,940 (54.3)

()は人口10万対

資料：厚生労働省「平成28年医療施設調査」

③ 薬局

薬局は、薬剤師が医薬品の販売又は授与の目的で調剤の業務を行う場所で、平成28年度衛生行政報告例（厚生労働省）によると、平成28年度末で全国では58,678施設、本県では607施設となっています。また、人口10万対薬局数は、全国平均の46.2に対し、本県は46.9と若干上回っています（人口10万対は総務省統計局発表の人口推計（平成28年10月1日現在推計人口）による）。

④ その他の医療関係施設

ア 介護老人保健施設

介護老人保健施設は、要介護認定を受けた要介護者で、病状安定期にあり、入院治療する必要はないが、リハビリテーション等の医療のケア及び日常生活の世話を必要とする者を対象とした施設で、平成29年4月1日現在、63施設あります。

イ 助産所

助産所は、助産師が助産や妊婦、新生児の保健指導等を行う施設で、平成29年10月1日現在、9施設（うち分娩取扱い2施設）があります。

ウ 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションは、在宅の寝たきり老人等や難病患者、障害者等の療養者に対して、医師の指示に基づき、看護師等が家庭に出向き、必要な看護サービス等の提供を行う施設で、平成29年4月1日現在、122施設あります。

エ 衛生検査所

衛生検査所は、人体から排出又は採取された検体について、医療機関に代わって微生物学的検査、血清学的検査等検体検査業務を行う場所として都道府県知事の登録を受けた施設で、平成29年10月1日現在、7施設があります。

⑤ 病床数

本県における医療施設の病床数は、平成28年10月1日現在、病院が17,574床、一般診療所が2,277床となっています。

病院の病床数を病床種別にみると、療養病床及び一般病床等が13,032床（構成比74.2%）、精神病床が4,453床（同25.3%）、結核病床が60床（同0.3%）、感染症病床29床（同0.2%）となっています。

また、人口10万対の病床数を全国と比較すると、本県は病院及び一般診療所とも全国を上回っており、特に一般診療所の病床は全国の約2.2倍となっています。（表6）

表6 病院・診療所別病床数（単位：床）

区分	病院	内訳				一般診療所
		療養病床及び一般病床	精神病床	結核病床	感染症病床	
青森県	17,574 (1359.2)	13,032 (1007.9)	4,453 (344.4)	60 (4.6)	29 (2.2)	2,277 (176.1)
全国	1,561,005 (1229.8)	1,219,559 960.8	334,258 (263.3)	5,347 4.2	1,841 (1.5)	103,451 (81.5)

（ ）は人口10万対

資料：厚生労働省「平成28年医療施設調査」

⑥ 病床利用率

本県における病床利用率は、療養病床を除く全ての病床が全国を下回っています。（表7）

表7 病院の病床利用率

	全病床	内訳				
		精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
青森県	77.1	85.1	-	21.6	88.6	71.0
全国	80.1	86.2	3.2	34.5	88.2	75.2

資料：厚生労働省「平成28年医療施設調査・病院報告」

⑦ 平均在院日数

本県における入院患者の平均在院日数は、一般病床及び結核病床が全国より長くなっています。（表8）

表8 病院の平均在院日数

	全病床	内訳				
		精神病床	感染症病床	結核病床	療養病床	一般病床
青森県	31.4	233.8	-	79.1	139.1	18.0
全 国	28.5	269.9	7.8	66.3	152.2	16.2

資料：厚生労働省「平成28年医療施設調査・病院報告」

(2) 保健関係施設

① 保健所

平成29年4月1日現在、県設置6か所及び青森市、八戸市設置各1か所、計8か所の保健所があり、結核、エイズなどの感染症対策、難病患者等に対する相談支援、健康増進、生活衛生や、地域住民の保健水準の向上、精神保健などの地域保健活動を行っており、公衆衛生の専門機関としての役割を担っています。

② 精神保健福祉センター

精神保健福祉センターは県設置で1か所あり、精神保健福祉に関する知識の普及、調査研究、相談・指導などを行っています。

③ 市町村保健センター

市町村保健センターは、平成29年4月1日現在32市町村にあり、市町村における対人保健サービスや地域住民が行う自主的な保健活動の拠点としての役割を担っています。

④ 環境保健センター

環境保健センターは県設置で1か所あり、公衆衛生情報の解析・提供、各種の試験検査、調査研究、研修指導などを行っています。

(3) 主な保健医療従事者の状況

本県における主な保健医療従事者数（人口10万対）は、保健師、看護師、准看護師、作業療法士、管理栄養士・栄養士、診療放射線（X線）技師、臨床（衛生）検査技師及び歯科技工士が全国を上回っており、医師、歯科医師、薬剤師、助産師、理学療法士、言語聴覚士及び歯科衛生士が全国を下回っています（表9）。

表9 主な保健医療従事者の状況

	青森県		全国	
	実数	人口10万対	実数	人口10万対
医師	2,583	198.2	304,759	240.1
歯科医師	734	56.8	101,551	80.0
薬剤師	1,856	143.5	230,186	181.3
保健師	636	49.2	51,280	40.4
助産師	326	25.2	35,774	28.2
看護師	12,789	989.1	1,149,397	905.5
准看護師	5,262	407.0	323,111	254.6
理学療法士	588	45.5	74,235	58.5
作業療法士	552	42.7	43,884	34.6
言語聴覚士	123	9.6	15,123	11.9
管理栄養士・栄養士	265	20.5	27,015	21.3
診療放射線(X線)技師	477	36.9	44,524	35.1
臨床(衛生)検査技師	574	44.4	55,162	43.5
歯科衛生士	870	67.3	123,831	97.6
歯科技工士	564	43.6	34,640	27.3

資料：医師、歯科医師、薬剤師

(厚生労働省「平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査」)

保健師、助産師、看護師、准看護師、歯科衛生士、歯科技工士

(厚生労働省「平成28年衛生行政報告例」)

理学療法士、作業療法士、管理栄養士、栄養士、診療放射線技師、診療放射線技師、診療X線技師、臨床検査技師、衛生検査技師

(厚生労働省「平成28年医療施設調査・病況報告」病院・診療所計)

3 医療機能の概況

県では、県内の病院、一般診療所及び歯科診療所において有する医療機能の現状を把握するために、公益社団法人青森県医師会及び一般社団法人青森県歯科医師会に委託して「青森県医療機能調査」(平成29年2月1日調査日)を実施しました。その概要は次のとおりです。(表10)

(1) 病院における悪性新生物治療の実施状況

平成28年1月1日～12月31日において、治療等の実績のある病院の数は次のとおりです。(調査対象86施設、回答86施設。うち、「がんの治療を行っている」と回答した38施設の治療状況。()内は38施設中の治療実施割合)

① 肺がん

肺がんに対する治療は、「化学療法」が18施設(47.4%)、「分子標的治療」が15施設(39.5%)、「放射線療法(その他)」が9施設(23.7%)、「放射線療法(定位体幹部放射線治療)」が8施設(21.1%)、「手術(開胸)」が7施設(18.4%)、「手術(胸腔鏡)」が6施設(15.8%)で実施されています。

② 胃がん

胃がんに対する治療は、「化学療法」が30施設(78.9%)、「内視鏡的粘膜切除術(EMR)」が26施設(68.4%)、「手術(開腹)」が26施設(68.4%)、「分子標的治療」が22施設(57.9%)、「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」が20施設(52.6%)、「手術(腹腔鏡)」が19施設(50.0%)、「放射線療法(その他)」が11施設(28.9%)で実施されています。

③ 大腸がん(直腸・結腸)

大腸がんに対する治療は、「化学療法」が29施設(76.3%)、「内視鏡的粘膜切除術(EMR)」が27施設(71.1%)、「手術(開腹)」が25施設(65.8%)、「分子標的治療」が23施設(60.5%)、「手術(腹腔鏡)」が21施設(55.3%)、「内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)」が14施設(36.8%)、「肝・肺転移に対する手術」が12施設(31.6%)、「放射線療法(その他)」が11施設(28.9%)で実施されています。

④ 肝がん

肝がんに対する治療は、「化学療法」が23施設(60.5%)、「分子標的治療」が15施設(39.5%)、「手術(肝切除)」が14施設(36.8%)、「ラジオ波焼灼療法(RFA)」が14施設(36.8%)、「肝動脈栓塞術(TAE)」が14施設(36.8%)、「肝動注化学療法(TAI)」が11施設(28.9%)、「経皮的エタノール注入療法(PEIT)」が10施設(26.3%)、「放射線療法」が9施設(23.7%)、「肝移植」が1施設(2.6%)で実施されています。

⑤ 乳がん

乳がんに対する治療は、「化学療法」が29施設(76.3%)、「手術(切除術)」が25施設(65.8%)、「ホルモン療法」が24施設(63.2%)、「分子標的治療」が23施設(60.5%)、「放射線療法」が10施設(26.3%)、「手術(乳房再建術)」が8施設(21.1%)で実施されています。

⑥ 子宮がん

子宮がんに対する治療は、「手術」が11施設(28.9%)、「化学療法」が11施設(28.9%)、「ホルモン療法」が9施設(23.7%)、「放射線療法(外照射)」が7施設(18.4%)、「放射線療法(小線源腔内照射)」が3施設(7.9%)で実施されています。

表 10 病院におけるがん診療の実施状況

がんの標準的治療	診療内容	①	②	③	④	⑤	⑥	計	実施割合(38施設中)	①~③の圏域の占める割合%
		津軽圏域	八戸圏域	青森圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域			
1 肺がんの治療機能	1 化学療法	4	6	3	1	3	1	18	47.4	72.2
	2 分子標的治療	4	4	2	1	3	1	15	39.5	66.7
	3 放射線療法(その他)	3	3	1	0	2	0	9	23.7	77.8
	4 放射線療法(体幹部定位放射線治療)	2	2	1	0	2	1	8	21.1	62.5
	5 手術(開胸)	3	2	1	0	1	0	7	18.4	85.7
	6 手術(胸腔鏡)	3	1	1	0	1	0	6	15.8	83.3
2 胃がんの治療機能	1 化学療法	8	7	5	4	5	1	30	78.9	66.7
	2 内視鏡的粘膜切除術(EMR)	7	6	4	3	5	1	26	68.4	65.4
	3 手術(開腹)	8	6	4	2	5	1	26	68.4	69.2
	4 分子標的治療	5	6	3	2	5	1	22	57.9	63.6
	5 内視鏡的粘膜下層剥離(ESD)	6	5	4	1	3	1	20	52.6	75.0
	6 手術(腹腔鏡)	6	3	2	2	5	1	19	50.0	57.9
	7 放射線療法(その他)	3	3	2	0	2	1	11	28.9	72.7
3 大腸がんの治療機能	1 化学療法	8	7	5	3	5	1	29	76.3	69.0
	2 内視鏡的粘膜切除術(EMR)	7	6	5	2	5	2	27	71.1	66.7
	3 手術(開腹)	8	5	4	2	5	1	25	65.8	68.0
	4 分子標的治療	6	6	3	2	5	1	23	60.5	65.2
	5 手術(腹腔鏡)	6	4	3	2	5	1	21	55.3	61.9
	6 内視鏡的粘膜下層剥離(ESD)	3	4	3	1	2	1	14	36.8	71.4
	7 肝・肺転移に対する手術	4	2	2	1	2	1	12	31.6	66.7
	8 放射線療法(その他)	3	3	2	0	2	1	11	28.9	72.7
4 肝がんの治療機能	1 化学療法	6	5	5	1	5	1	23	60.5	69.6
	2 分子標的治療	3	3	2	1	5	1	15	39.5	53.3
	3 手術(肝切除)	2	3	3	1	4	1	14	36.8	57.1
	4 ラジオ波焼灼両方(RFA)	4	3	3	0	3	1	14	36.8	71.4
	5 肝動脈栓塞術(TAE)	4	3	3	0	3	1	14	36.8	71.4
	6 肝動注化学療法(TAI)	3	3	2	0	3	0	11	28.9	72.7
	7 経皮的エタノール注入療法(PEIT)	3	2	3	0	1	1	10	26.3	80.0
	8 放射線療法	1	3	2	0	2	1	9	23.7	66.7
	9 肝移植	1	0	0	0	0	0	1	2.6	100.0
5 乳がんの治療機能	1 化学療法	8	8	4	3	5	1	29	76.3	69.0
	2 手術(切除術)	7	7	4	2	4	1	25	65.8	72.0
	3 ホルモン療法	7	8	2	1	5	1	24	63.2	70.8
	4 分子標的治療	5	7	3	2	5	1	23	60.5	65.2
	5 放射線療法	2	3	2	0	2	1	10	26.3	70.0
	6 手術(乳房再建術)	4	3	1	0	0	0	8	21.1	100.0
6 子宮がんの治療機能	1 手術	3	2	2	1	2	1	11	28.9	63.6
	2 化学療法	3	1	3	1	2	1	11	28.9	63.6
	3 ホルモン療法	2	2	1	1	2	1	9	23.7	55.6
	4 放射線療法(外照射)	1	1	2	0	2	1	7	18.4	57.1
	5 放射線療法(小線源腔内照射)	1	1	1	0	0	0	3	7.9	100.0

資料：青森県「平成 28 年度青森県医療機能調査」

(2) 歯科診療所における各種診療等の実施状況

- ① 歯科診療に対する診療取扱状況は、「一般歯科診療」が 499 施設（回答数である 507 施設に対して 98.4%。以下同じ。）、「小児歯科診療」が 394 施設（77.7%）、「歯科口腔外科診療」が 279 施設（55.0%）、「矯正歯科診療」が 178 施設（35.1%）となっています。
- ② 手術等の実施状況では、「埋伏歯抜歯手術」が 335 施設（66.1%）、「歯周外科手術」が 204 施設（40.2%）、「根端切除手術」が 175 施設（34.5%）、「インプラント治療」が 101 施設（19.9%）、「歯牙移植術」が 67 施設（13.2%）、「骨折・顎骨手術」が 12 施設（2.4%）で実施されています。

- ③ 保健事業の実施状況では、「歯科健康診査」が463施設（91.3%）、「フッ化物歯面塗布」が391施設（77.1%）、「予防填塞（シーラント）」が284施設（56.0%）、「フッ化物洗口の指導」が197施設（38.9%）で実施されています。（表11）

表11 歯科診療所における疾患別診療の実施状況

診療取扱状況

	津軽圏域	八戸圏域	青森圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	合計	実施割合(回答施設507施設中)%
一般歯科診療	120	123	132	41	61	22	499	98.4
小児歯科診療	105	93	100	33	48	15	394	77.7
歯科口腔外科診療	70	73	71	22	36	7	279	55.0
矯正歯科診療	43	49	41	12	28	5	178	35.1

手術等実施状況

	津軽圏域	八戸圏域	青森圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	合計	実施割合(回答施設507施設中)%
埋伏歯抜歯手術	80	85	89	26	45	10	335	66.1
歯周外科手術	51	53	53	15	25	7	204	40.2
歯根端切除手術	41	43	45	13	29	4	175	34.5
インプラント治療	24	25	27	8	13	4	101	19.9
歯牙移植術	20	20	15	3	7	2	67	13.2
骨折・顎骨手術	2	5	1	1	2	1	12	2.4

保健事業実施の状況

	津軽圏域	八戸圏域	青森圏域	西北五圏域	上十三圏域	下北圏域	合計	実施割合(回答施設507施設中)%
歯科健康診査	113	110	125	39	58	18	463	91.3
フッ化物歯面塗布	97	88	116	32	48	10	391	77.1
予防填塞（シーラント）	69	71	80	19	38	7	284	56.0
フッ化物洗口の指導	53	45	52	13	27	7	197	38.9

資料：青森県「平成28年度青森県医療機能調査」

4 患者の受療状況

(1) 患者数

平成26年10月21日(火)～24日(金)の期間のうち、各医療機関に指定した1日における国民の受療状況をまとめた厚生労働省の「平成26年患者調査」によると、県内に住所を有する者が医療機関で受療（県外で受療したものを含む。）した数は、入院14.6千人、外来76.6千人、総数91.2千人となっています。これは、調査を実施した特定の1日において、県民の約14.5人に1人が県内の医療施設で受療したことになります（人口を青森県推計人口1,321,000人（総務省統計局推計人口）とした場合）。

① 施設種類・性・年齢階級別患者数

ア 総数（入院・外来患者数）

平成26年調査の総数91.2千人について施設の種別別にみると、病院33.0千人（総数の36.2%）、一般診療所46.9千人（同51.4%）、歯科診療所11.3千人（同12.4%）となっています。

性別にみると、男性38.5千人（同42.2%）、女性52.7千人（同57.8%）で女性が多くなっています。

年齢階級別にみると、65歳以上では46.4千人（同50.9%）となっています。

年次推移では、患者数が最も多かった平成5年（入院21.2千人、外来98.1千人、総数

119.3千人)と比較すると、76.4%に減っています。(表12)

イ 入院患者数

入院患者14.6千人について施設の種別別にみると、病院13.8千人(入院患者総数の94.5%)、一般診療所0.8千人(同5.5%)となっています。

性別にみると、男性6.6千人(同45.2%)、女性8.0千人(同54.8%)で女性が多く、年齢階級別にみると、65歳以上では9.9千人(同67.8%)となっています。

年次推移では、患者総数が最も多かった平成2年(21.5千人)と比較すると、67.9%に減っています。一般診療所では、平成5年(3.4千人)と比較すると23.5%に減っています。(表12、13)

ウ 外来患者数

外来患者76.6千人について施設の種別別にみると、病院19.2千人(外来患者総数の25.1%)、一般診療所46.1千人(同60.1%)、歯科診療所11.3千人(同14.8%)となっています。

性別にみると、男性31.9千人(同41.6%)、女性44.7千人(同58.4%)で女性が多く、年齢階級別にみると、65歳以上では36.5千人(同47.7%)となっています。

年次推移では、患者数が最も多かった平成5年(98.1千人)と比較すると、78.1%に減っています。病院では、平成8年(30.7千人)と比較すると62.5%に減っています。(表12、13)

表12 患者数 入院・外来—施設—年次別(千人)

区分	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
昭和62年	20.2	17.2	3.0	90.1	23.6	52.3	14.2
平成2年	21.5	18.2	3.3	97.2	26.8	56.6	13.8
5年	21.2	17.9	3.4	98.1	26.7	57.2	14.2
8年	19.6	16.8	2.8	96.8	30.7	53.2	12.9
11年	19.3	16.8	2.5	92.7	28.7	50.9	13.1
14年	17.6	15.3	2.3	87.2	27.2	49.5	10.5
17年	18.0	16.0	1.9	87.5	22.9	51.4	13.2
20年	16.5	14.9	1.6	82.5	20.8	48.3	13.4
23年	15.5	14.3	1.2	85.6	20.0	53.9	11.7
26年	14.6	13.8	0.8	76.6	19.2	46.1	11.3

資料：厚生労働省「患者調査」

表 13 患者数 入院・外来一性一年齢階級別（千人）

年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	14.6	6.6	8	76.6	31.9	44.7
0～4歳	0.1	0.1	0.1	4.5	2.4	2.1
5～14	0.1	0.1	0	3.6	2	1.6
15～24	0.2	0.1	0.1	2.7	0.9	1.8
25～34	0.6	0.2	0.4	4.2	1.4	2.8
35～44	0.7	0.3	0.4	5.4	2.1	3.3
45～54	0.9	0.5	0.4	7.2	3.2	4
55～64	2	1.1	0.9	12	5.3	6.8
65～74	2.9	1.6	1.2	16.1	6.9	9.2
75～84	4	1.8	2.2	15.6	6.2	9.4
85歳以上	3.1	0.8	2.2	4.8	1.4	3.4
不詳	0	0	0	0.4	0.1	0.3
65歳以上(再掲)	9.9	4.2	5.7	36.5	14.5	22
70歳以上(再掲)	8.6	3.4	5.1	28.7	11.1	17.6
75歳以上(再掲)	7.1	2.6	4.5	20.4	7.6	12.8

※ 千人単位のため、男女の合計と総計が一致しない場合がある。

資料：厚生労働省「平成26年患者調査」

(2) 受療率(人口10万人に対する患者数)

本県における入院・外来を合わせた受療率は、人口10万人当たり6,901で、最も多い平成8年(7,848)より947減少しました。入院、外来別で見ると、入院1,103、外来5,798で、平成8年(入院1,322、外来6,536)より入院は219減少し、外来は738減少しています。(表14)

表 14 受療率 入院・外来・年次別（人口10万対）

	平成8年	平成11年	平成14年	平成17年	平成20年	平成23年	平成26年
総数	7,848	7,590	7,137	7,342	7,112	7,414	6,901
入院	1,322	1,306	1,202	1,253	1,186	1,136	1,103
外来	6,526	6,284	5,935	6,089	5,926	6,277	5,798

資料：厚生労働省「平成26年患者調査」

①施設種類別受療率

ア 入院受療率

入院について、施設の種類別にみると、病院1,042(入院患者総数の94.5%)、一般診療所61(同5.5%)となっています。

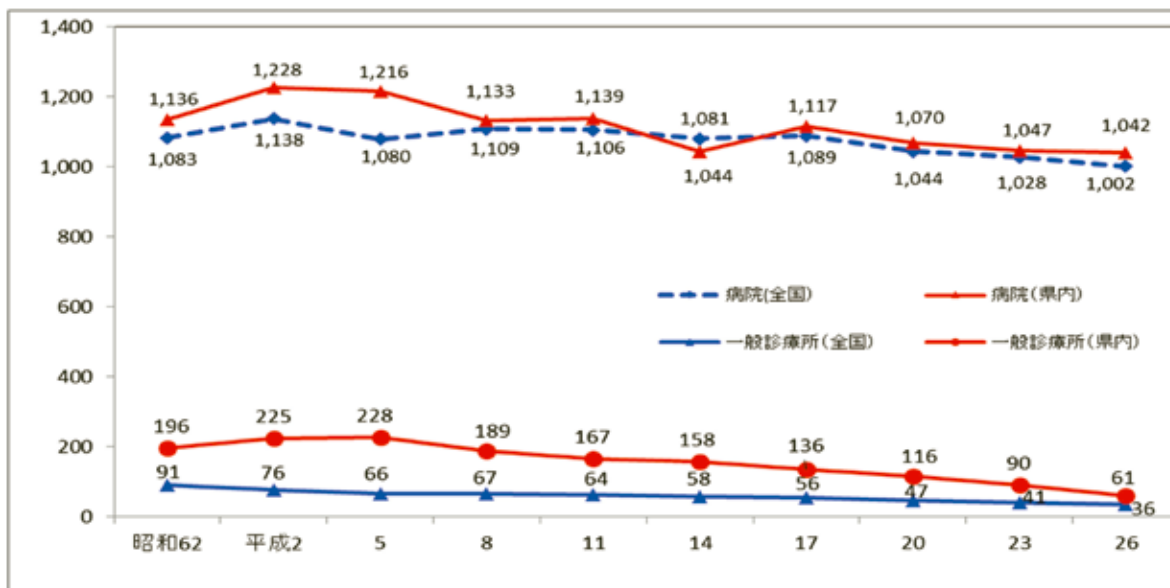
全国の状況は、病院は1,002(同96.5%)、一般診療所は36(同3.5%)であり、本県では、病院及び一般診療所は全国の受療率を上回っています。(図23)

イ 外来受療率

外来について、施設の種類別にみると、病院1,454(外来患者総数の25.1%)、一般診療所3,489(同60.2%)、歯科診療所は854(同14.7%)となっています。

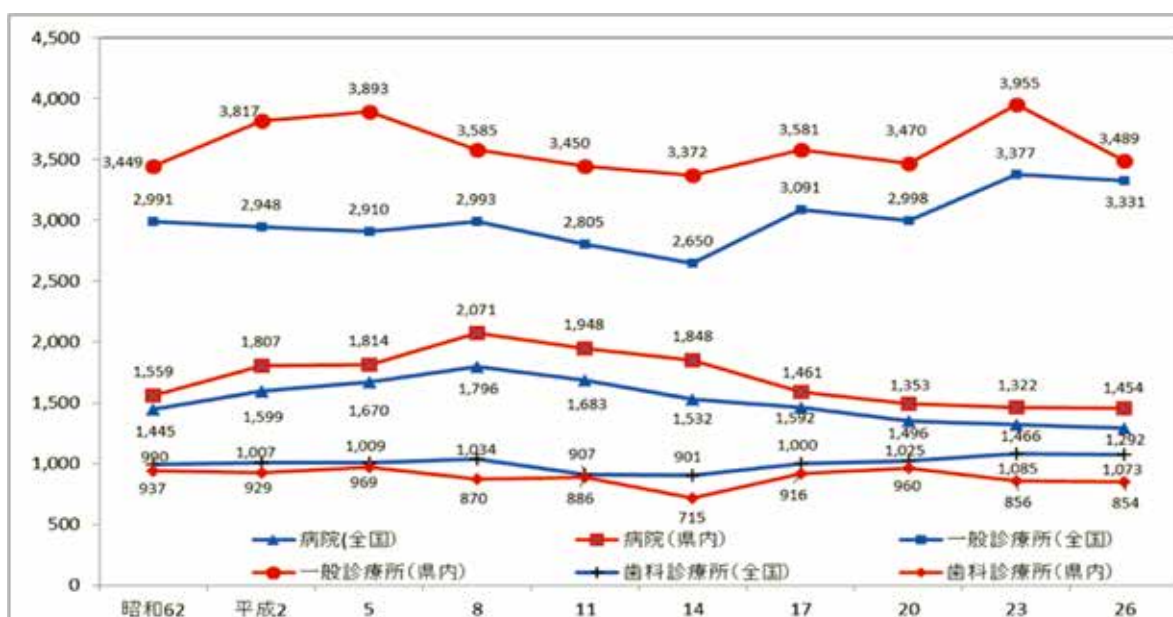
全国の状況は、病院は1,292(同22.7%)、一般診療所は3,331(同58.5%)、歯科診療所は1,073(同18.8%)であり、本県では、病院及び一般診療所は全国の受療率を上回っています。(図24)

図23 入院受療率の推移 施設種類別・全国－青森県（人口10万対）



資料：厚生労働省「平成26年患者調査」

図24 外来受療率の推移 施設種類別・全国－青森県（人口10万対）



資料：厚生労働省「平成26年患者調査」

②性・年齢階級別受療率

ア 入院受療率

入院受療率について性別でみると、男性1,064、女性1,138とほぼ同率になっています。年齢階級別にみると、加齢とともに上昇傾向を示し、75歳以上が3,567と最も高くなっています。（表15）

また、全国と比較すると、5歳～64歳までの年齢階級において全国を上回っていますが、75歳以上では全国の4,205に対し、本県は3,567と大きく下回っています。

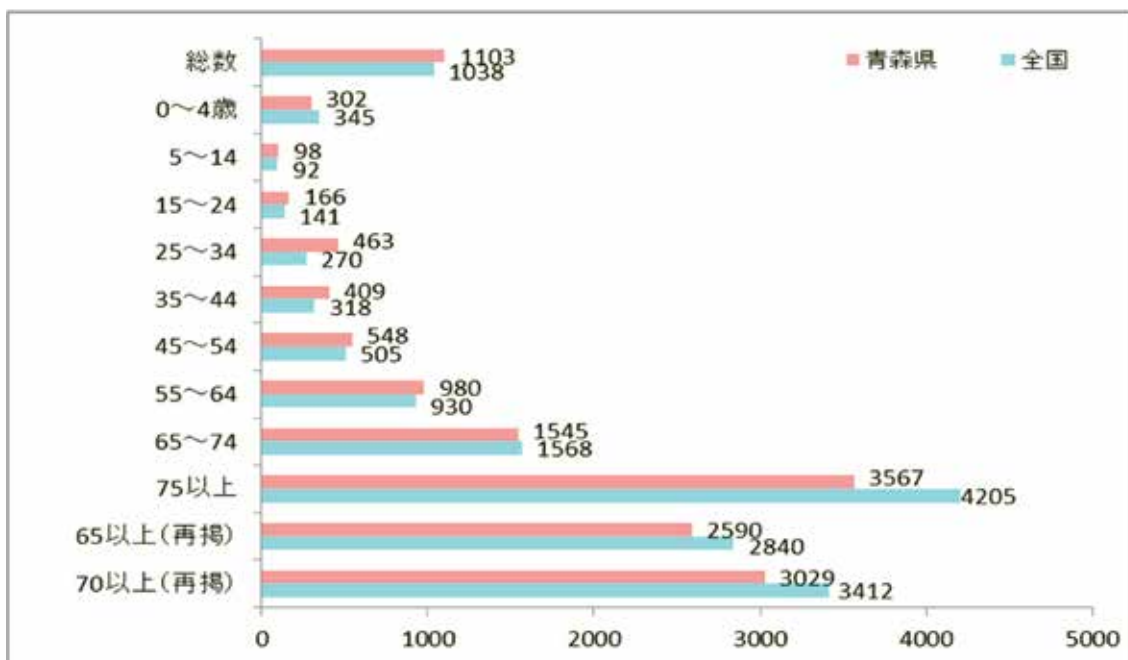
（図25）

イ 外来受療率

外来受療率について性別でみると、男性 5,147、女性 6,373 と女性が高くなっています。年齢階級別にみると、0～4歳から下降し 15～24歳で 2,333 と最も低下しますが、この後 40歳代後半から上昇し 75歳以上が 10,306 と最も高くなっています。（表 15）

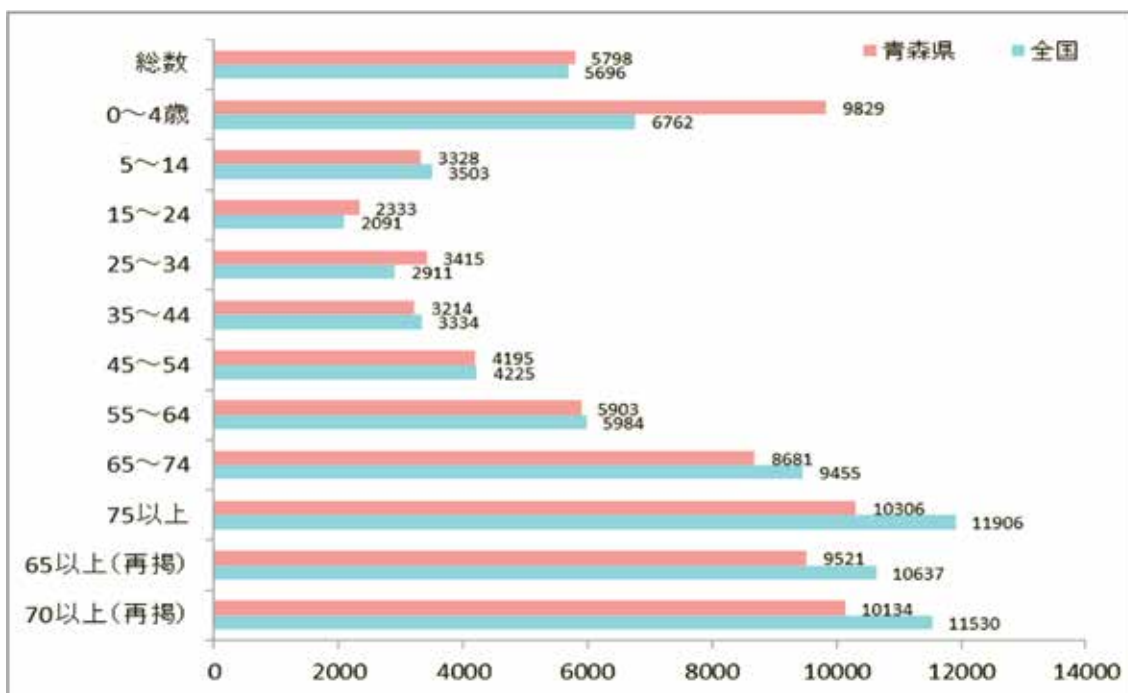
また、全国と比較すると、5歳～44歳までの年齢階級はほぼ同じ状況ですが、0～4歳の年齢階級において、全国を大きく上回っています。（図 26）

図 25 年齢階級別入院受療率 全国－青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

図 26 年齢階級別外来受療率 全国－青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

表 15 年齢階級別受療率 入院・外来・性別（人口 10 万対）

年齢階級	入院			外来		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	1,103	1,064	1,138	5,798	5,147	6,373
0～4歳	302	297	293	9,829	10,066	9,155
5～14	98	117	78	3,328	3,604	3,042
15～24	166	147	183	2,333	1,545	3,135
25～34	463	295	645	3,415	2,223	4,702
35～44	409	360	462	3,214	2,514	3,943
45～54	548	618	480	4,195	3,858	4,516
55～64	980	1,173	805	5,903	5,419	6,341
65～74	1,545	1,927	1,227	8,681	8,196	9,085
75歳以上	3,567	3,725	3,508	10,306	10,837	10,094
65歳以上(再掲)	2,590	2,745	2,487	9,521	9,397	9,604
70歳以上(再掲)	3,029	3,223	2,927	10,134	10,386	10,037

資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

③ 傷病分類別受療率

ア 入院受療率

入院受療率について傷病別にみると、「精神及び行動の障害」が 223、「循環器の疾患」が 191、「新生物」が 143 の順で高くなっています。

全国と比較すると、「新生物」（本県 143、全国 114）、「精神及び行動の障害」（本県 223、全国 209）のほか複数分類において高くなっており、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」（本県 96、全国 103）などが低くなっています。

施設種類別ごとでは、病院では、「精神及び行動の障害」が 223（21.4%）、「循環器系の疾患」が 181（17.4%）、「新生物」が 141（13.5%）の順で高く、一般診療所では、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」が 11 で 18.0%と高くなっています。

（図 27、表 16）

イ 外来受療率

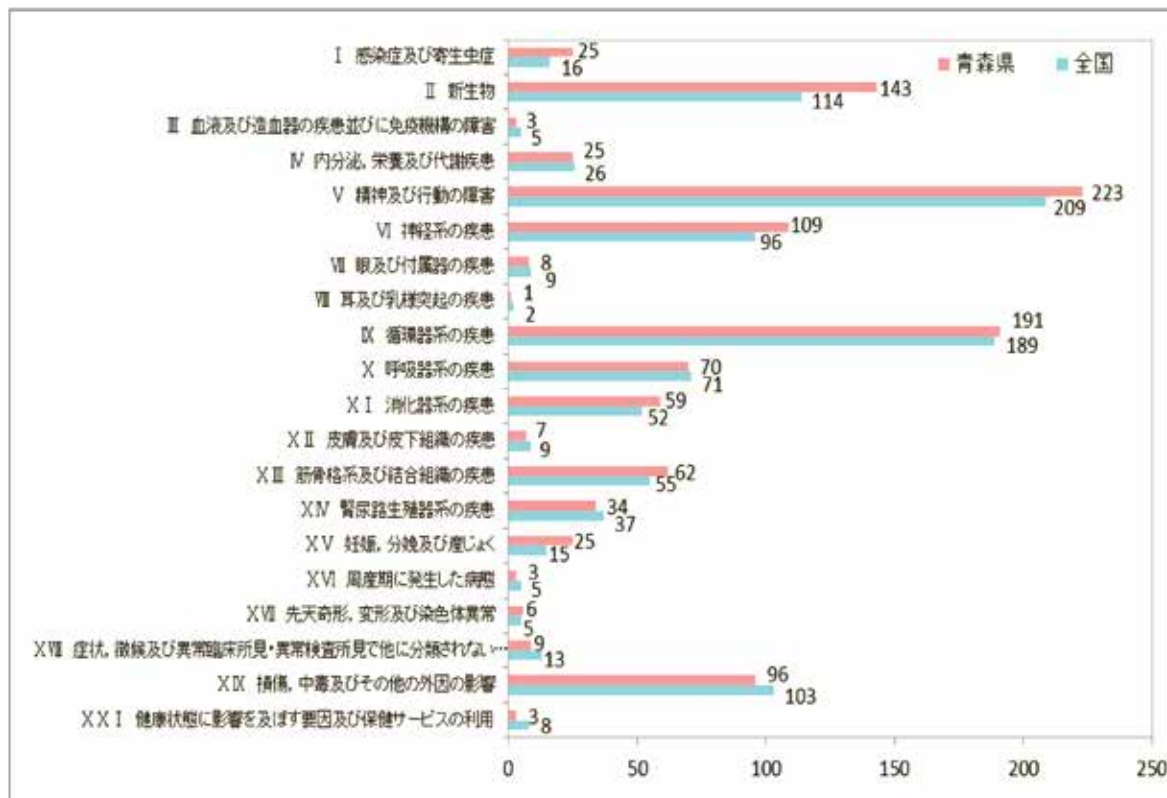
外来受療率について傷病別にみると、「循環器系の疾患」が 904、「消化器系の疾患」が 782、「筋骨格系及び結合組織の疾患」702 の順で高くなっています。

全国と比較すると、「循環器系の疾患」（本県 904、全国 734）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」（本県 702、全国 691）、「呼吸器系の疾患」（本県 562、全国 526）、「眼及び付属器の疾患」（本県 274、全国 260）のほか複数分類において高くなっており、「消化器系の疾患」（本県 782、全国 1,031）、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」（本県 196、全国 241）などが低くなっています。

施設種類別ごとでは、病院では、「循環器系の疾患」が 207（14.2%）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が 184（12.7%）、「新生物」174（12.0%）の順で高く、一般診療所では、「循環器系の疾患」が 697（20.0%）、「筋骨格系及び結合組織の疾患」が 519（14.9%）、「呼吸器系の疾患」が 483（13.8%）の順で高くなっています。

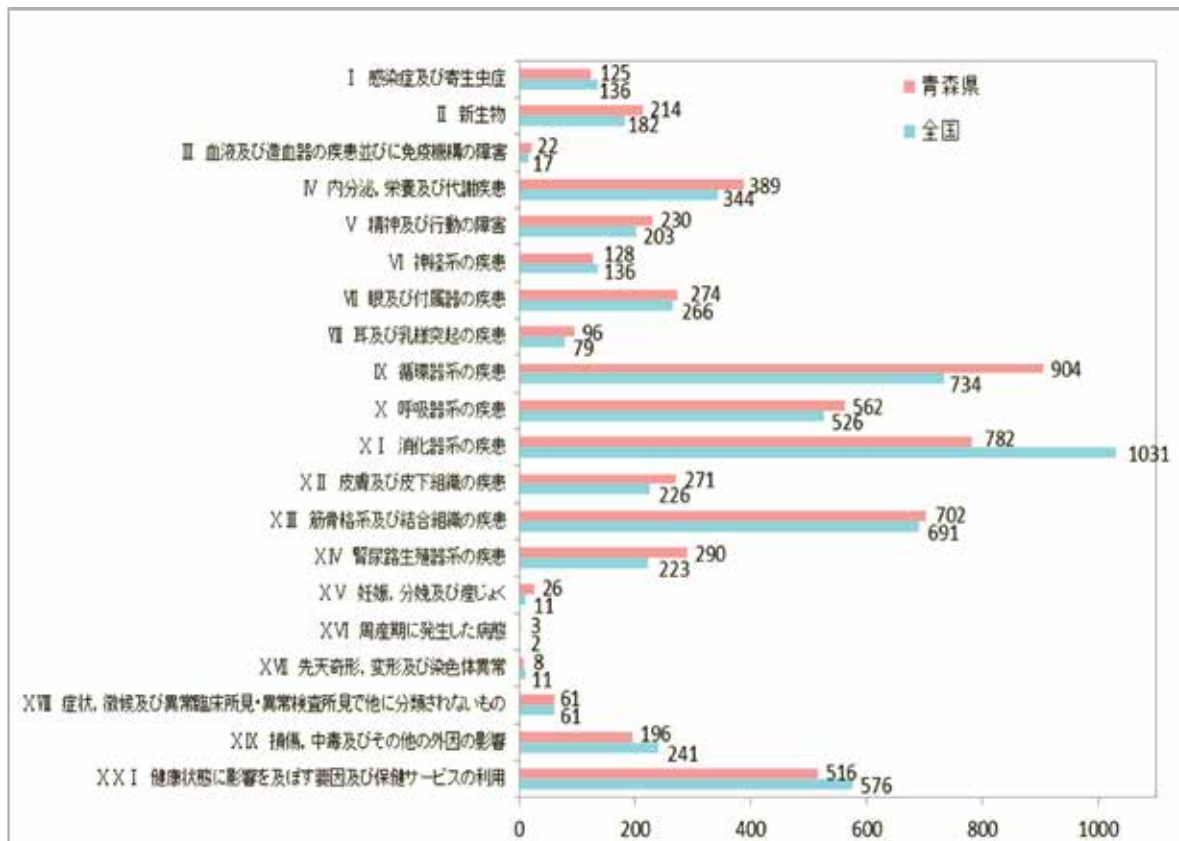
（図 28、表 16）

図 27 傷病分類別入院受療率 全国一青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

図 28 傷病分類別外来受療率 全国一青森県（人口 10 万対）



資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

表 16 傷病分類別受療率 入院－外来・施設別（人口 10 万対）

全傷病分類	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	1,103	1,042	61	5,798	1,454	3,489	854
I 感染症及び寄生虫症	25	25	1	125	26	99	-
II 新生物	143	141	2	214	174	41	-
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	3	3	1	22	9	13	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	25	22	3	389	142	247	-
V 精神及び行動の障害	223	223	1	230	137	93	-
VI 神経系の疾患	109	109	1	128	69	59	-
VII 眼及び付属器の疾患	8	5	3	274	55	218	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	1	1	-	96	10	86	-
IX 循環器系の疾患	191	181	10	904	207	697	-
X 呼吸器系の疾患	70	64	6	562	79	483	-
XI 消化器系の疾患	59	54	4	782	84	104	595
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	7	7	-	271	29	241	-
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	62	54	8	702	184	519	-
XIV 腎尿路生殖器系の疾患	34	33	1	290	86	204	-
XV 妊娠、分娩及び産じょく	25	15	10	26	9	17	-
XVI 周産期に発生した病態	3	3	-	3	3	-	-
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	6	6	-	8	5	3	-
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	9	9	-	61	28	32	-
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	96	85	11	196	60	135	2
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	3	3	-	516	59	199	258

※ 千人単位のため各項目の合計が総数と合わない場合がある

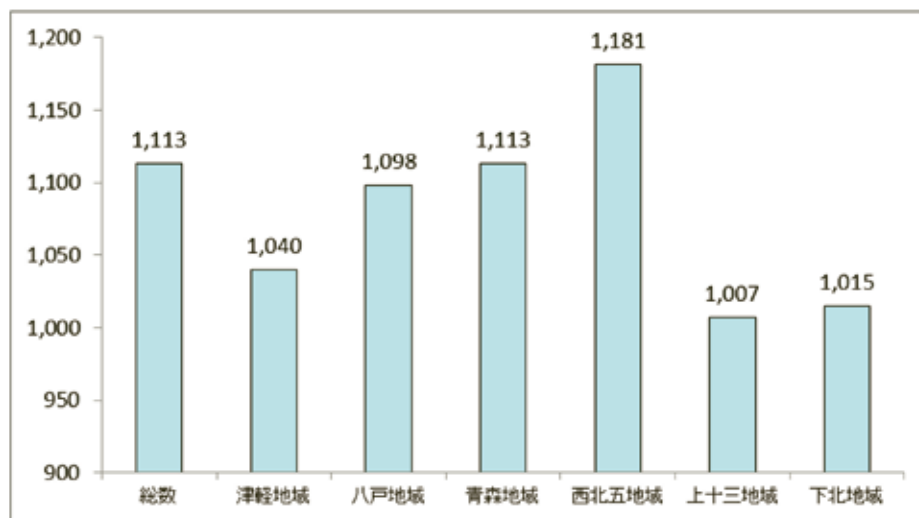
資料：厚生労働省「平成 26 年患者調査」

④ 二次保健医療圏（患者の住所地）別入院受療率

県では、県内の医療施設における患者の受療動向を把握するため、「平成 28 年度青森県受療動向調査」（調査日：平成 28 年 10 月 27 日（休診の場合は翌 28 日））を実施しました。（回答率：病院 100%、一般診療所 93.2%、歯科診療所 93.9%）

入院の受療率は、県全体で 1,113 であり、二次保健医療圏（患者住所地）別にみると、①西北五地域 1,181、②青森地域 1,113、③八戸地域 1,098、④津軽地域 1,040、⑤下北地域 1,015、⑥上十三地域 1,007 の順になっています。（図 29）

図 29 二次保健医療圏（患者住所地）別にみた入院受療率（人口 10 万対）



資料：青森県「平成 28 年度青森県受療動向調査」

(3) 患者の動向

① 二次保健医療圏別にみた入院患者の動向

入院患者の動向を二次保健医療圏別にみると、圏域外の患者が流入する割合では、①津軽地域 20.2%、②青森地域 16.8%、③八戸地域 14.3%、④上十三地域 13.7%、⑤下北地域 3.0%、⑥西北五地域 2.0%の順となっており、その流入元をみると、隣接した地域からの流入が多くなっていますが、八戸地域では県外からの流入が多くなっています。(表17)

また、圏域外へ流出する割合では、①西北五地域30.1%、②上十三地域26.5%、③下北地域25.3%、④青森地域5.8%、⑤津軽地域5.3%及び八戸地域5.3%となっており、その流出先をみると、西北五地域からは津軽地域へ、上十三地域からは八戸地域へ、下北地域からは青森地域への流出が多くなっています。(表18)

表17 施設所在地（二次保健医療圏）からみた入院患者の動向

		H27.10.1 人口(人)	患者住所地							流入患者 割合
			津 軽	八 戸	青 森	西北五	上十三	下 北	県 外	
施設 住所 地	津 軽	290,633	79.8	0.5	5.0	9.4	1.1	0.8	3.4	20.2
	八 戸	320,401	0.1	85.7	0.3	0.0	6.7	0.5	6.7	14.3
	青 森	304,781	3.5	0.8	83.2	4.2	4.2	2.9	1.1	16.8
	西北五	131,423	1.6		0.4	98.0			0.1	2.0
	上十三	175,662		9.3	0.5	0.1	86.3	2.3	1.4	13.7
	下 北	74,115					2.3	97.0	0.7	3.0

資料：青森県「平成28年度青森県受療動向調査」

表18 患者住所地（二次保健医療圏）からみた入院患者の動向

		H27.10.1 人口(人)	施設住所地						流出患者 割合
			津 軽	八 戸	青 森	西北五	上十三	下 北	
患者 住所 地	津 軽	290,633	94.7	0.1	4.6	0.6			5.3
	八 戸	320,401	0.5	94.7	0.9		4.0		5.3
	青 森	304,781	5.1	0.3	94.2	0.1	0.2		5.8
	西北五	131,423	20.1	0.1	9.8	69.9	0.1		30.1
	上十三	175,662	2.0	14.7	8.9		73.5	0.8	26.5
	下 北	74,115	3.6	2.5	14.6		4.7	74.7	25.3
	県 外		25.6	59.5	9.1	0.2	4.7	0.9	

資料：青森県「平成28年度青森県受療動向調査」

② 患者の住所地（市町村）からみた入院患者の動向

患者がどの地域の医療施設に入院したか、住所地の市町村ごとにみると、多くは自らの二次保健医療圏内で入院していますが、その割合は圏域間で大きく異なります。

大規模な医療機関や高度医療を担う医療機関の多い津軽地域、八戸地域、青森地域の各保健医療圏では、圏域内のどの市町村も概ね90%以上の患者が自圏域内の医療施設で入院していますが、西北五地域、上十三地域、下北地域の各保健医療圏では、市町村ごとの自圏域内における入院は概ね80%以下となっており、また、市町村ごとでも高低差があります。

(表19、図30)

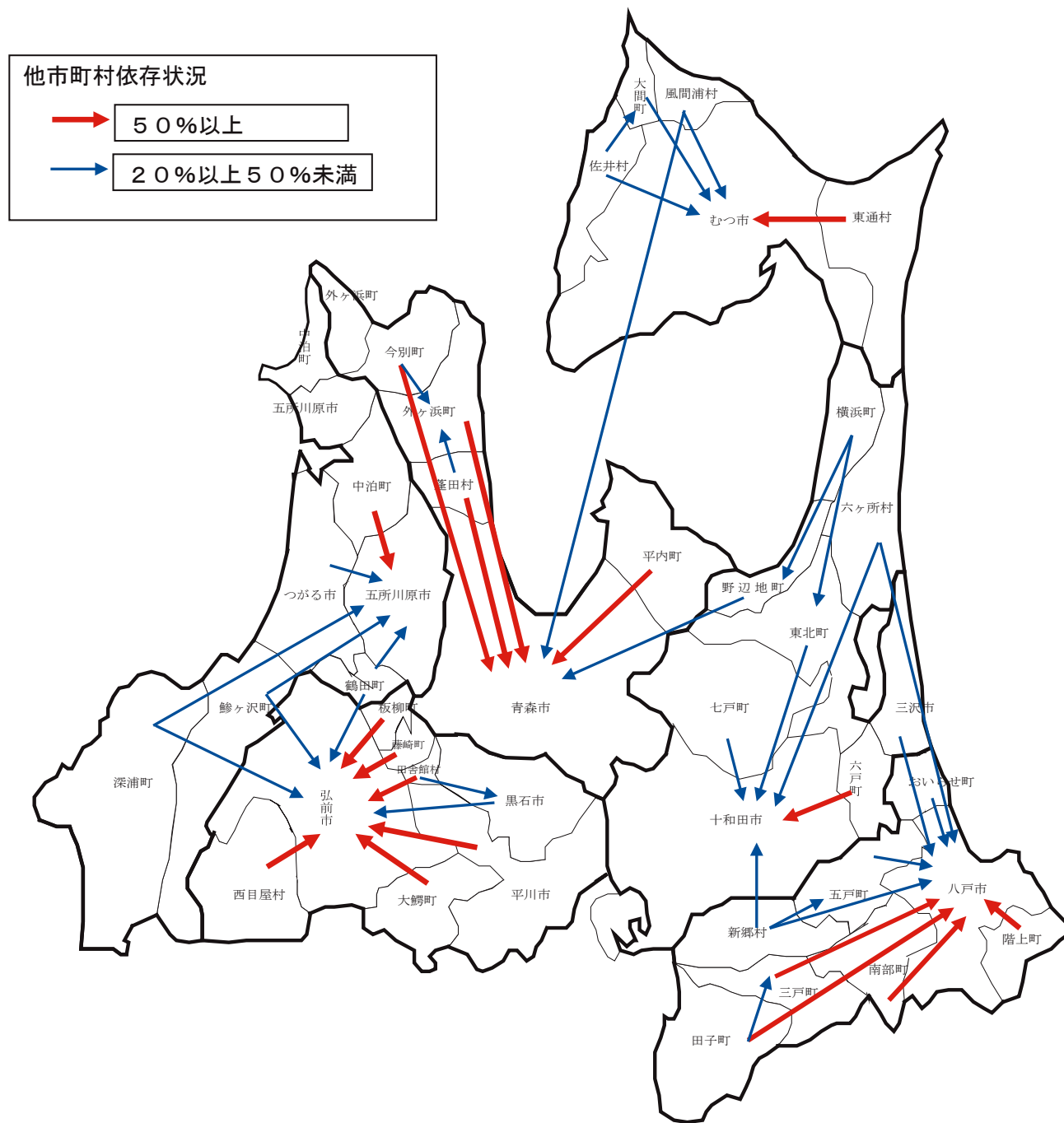
表 19 患者住所地（市町村）からみた入院患者の動向

(単位:%)

患者住所地	受療先1		受療先2		受療先3		受療先4		受療先5		
	施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率	施設住所地	率	
津軽圏域	弘前市	弘前市	92.2	青森市	3.7	黒石市	1.9	板柳町	0.8	藤崎町	0.5
	黒石市	黒石市	55.0	弘前市	30.3	青森市	7.1	藤崎町	3.7	平川市	3.1
	平川市	弘前市	63.3	黒石市	17.3	平川市	11.8	青森市	4.6	藤崎町	2.0
	西目屋村	弘前市	94.7	青森市	5.3						
	藤崎町	弘前市	62.4	藤崎町	27.4	青森市	7.0	黒石市	2.5	五所川原	0.6
	大鰐町	弘前市	70.3	大鰐町	16.9	黒石市	5.1	青森市	5.1	平川市	1.7
	田舎館村	弘前市	63.2	黒石市	23.7	藤崎町	7.9	青森市	5.3		
	板柳町	弘前市	62.5	板柳町	23.5	藤崎町	4.4	青森市	3.7	五所川原	2.9
八戸圏域	八戸市	八戸市	95.5	おいらせ町	1.6	三沢市	1.1	青森市	0.7	弘前市	0.5
	おいらせ町	八戸市	47.5	おいらせ町	27.8	三沢市	15.2	十和田市	8.1	青森市	1.0
	三戸町	八戸市	53.5	三戸町	22.8	南部町	18.1	青森市	2.4	十和田市	1.6
	五戸町	五戸町	44.1	八戸市	34.2	十和田市	10.8	三沢市	4.1	おいらせ町	3.6
	田子町	八戸市	56.1	三戸町	28.8	南部町	13.6	十和田市	1.5		
	南部町	八戸市	63.1	南部町	33.0	三沢市	1.9	三戸町	1.0	五戸町	0.5
	階上町	八戸市	91.9	三沢市	4.0	青森市	2.4	弘前市	1.6		
	新郷村	八戸市	39.0	五戸町	31.7	十和田市	22.0	南部町	4.9	三戸町	2.4
	青森市	青森市	93.7	弘前市	3.5	黒石市	1.1	藤崎町	0.9	八戸市	0.4
青森圏域	平内町	青森市	56.7	平内町	39.2	弘前市	2.1	野辺地町	1.0	十和田市	0.5
	外ヶ浜町	青森市	80.0	外ヶ浜町	20.0						
	今別町	青森市	69.8	外ヶ浜町	27.9	弘前市	2.3				
	蓬田村	青森市	78.8	外ヶ浜町	21.2						
西北五圏域	五所川原市	五所川原	64.5	弘前市	16.0	青森市	10.9	つがる市	6.4	板柳町	1.0
	つがる市	五所川原	39.7	つがる市	37.1	弘前市	13.9	青森市	6.7	鱒ヶ沢町	0.9
	鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町	38.3	弘前市	27.5	五所川原	20.8	つがる市	7.5	青森市	5.0
	深浦町	弘前市	37.0	五所川原	21.9	鱒ヶ沢町	17.8	青森市	16.4	つがる市	6.8
	鶴田町	五所川原	35.9	弘前市	27.5	つがる市	16.0	板柳町	9.9	青森市	9.2
	中泊町	五所川原	67.8	青森市	16.4	弘前市	13.7	つがる市	2.1		
上十三圏域	十和田市	十和田市	78.7	八戸市	12.4	青森市	2.9	弘前市	2.5	三沢市	1.5
	三沢市	三沢市	53.4	八戸市	26.5	十和田市	14.0	青森市	2.8	弘前市	1.4
	野辺地町	野辺地町	37.5	青森市	31.3	十和田市	16.8	東北町	9.6	弘前市	1.4
	七戸町	十和田市	38.4	七戸町	27.7	青森市	13.2	八戸市	6.9	東北町	5.0
	六戸町	十和田市	58.8	三沢市	17.5	八戸市	15.5	おいらせ町	4.1	弘前市	2.1
	横浜町	東北町	28.6	野辺地町	23.2	青森市	16.1	十和田市	14.3	むつ市	12.5
	東北町	十和田市	30.4	東北町	22.9	八戸市	11.7	三沢市	9.3	野辺地町	8.4
	六ヶ所村	八戸市	22.6	十和田市	20.4	青森市	15.1	三沢市	14.0	野辺地町	12.9
下北圏域	むつ市	むつ市	75.7	青森市	14.3	弘前市	3.3	十和田市	3.1	八戸市	2.3
	大間町	大間町	43.1	むつ市	41.2	青森市	11.8	八戸市	3.9		
	東通村	むつ市	62.7	青森市	15.7	十和田市	11.8	弘前市	3.9	八戸市	3.9
	風間浦村	むつ市	33.3	青森市	23.8	大間町	14.3	弘前市	9.5	八戸市	4.8
	佐井村	むつ市	40.6	大間町	37.5	青森市	15.6	弘前市	6.3		
県外	北海道	八戸市	33.3	青森市	33.3	十和田市	16.7	弘前市	8.3	三沢市	8.3
	岩手県	八戸市	88.6	南部町	4.4	弘前市	2.6	十和田市	1.7	三沢市	1.3
	秋田県	弘前市	84.4	青森市	11.5	黒石市	2.1	大鰐町	1.0	十和田市	1.0
	その他の県	八戸市	38.0	青森市	23.9	弘前市	15.2	十和田市	5.4	三沢市	4.3

資料：青森県「平成28年度青森県受療動向調査」

図 30 患者住所地（市町村別）からみた医療依存の動向
医療の依存状況（入院）



資料：青森県「平成 28 年度青森県受療動向調査」

5 県民の意識

医療や健康に関する県民の関心は非常に高くなっています。「青森県民の意識に関する調査（1万人アンケート）」（平成25年4月）によると、次のとおりです。

（1）生活局面の重要度

生活局面の「重要度」について、49の局面を設定し、「重要である」、「やや重要である」、「どちらともいえない」、「あまり重要でない」、「重要でない」の5段階及び「わからない」により回答を求めたところ、「豊かな自然やきれいな水と空気が保たれていること」や「新鮮で安全な食品が買えること」などの重要度が90%を超え高くなっており、「病気のときに適切な診断や治療が受けられること」は87.8%となっています。

他方、「重要である」「やや重要である」と回答した割合の合計が最も低いのは「インターネットや携帯電話などを利用し、暮らしが便利であること」で58.8%、次いで「海外との交流や協力活動が活発であること」が60.1%、「都市と農山漁村の住民がお互いに行き来し、交流が活発であること」60.3%などとなっています。（表20）

（2）生活局面の満足度

生活局面の「満足度」について、49の局面を設定し、「満たされている」、「やや満たされている」、「どちらともいえない」、「あまり満たされていない」の5段階及び「わからない」により回答を求めたところ、「満たされている」「やや満たされている」と回答した割合の合計が最も高いのは「新鮮で安全な食品が買えること」で66.1%、次いで「豊かな自然やきれいな水と空気が保たれていること」で64.7%、「病気のときに適切な診断や治療が受けられること」が51.1%などとなっています。

他方、「満たされている」「やや満たされている」と回答した割合の合計が最も低いのは「就職や再就職がしやすいこと」で5.3%、次いで「新たに事業を起こしたり、地域の活性化に取り組む人材が育成されていること」が6.2%、「企業誘致などによって働く場が生み出されること」が7.4%などとなっています。（表21）

表 20 生活局面の現状認識（重要度）

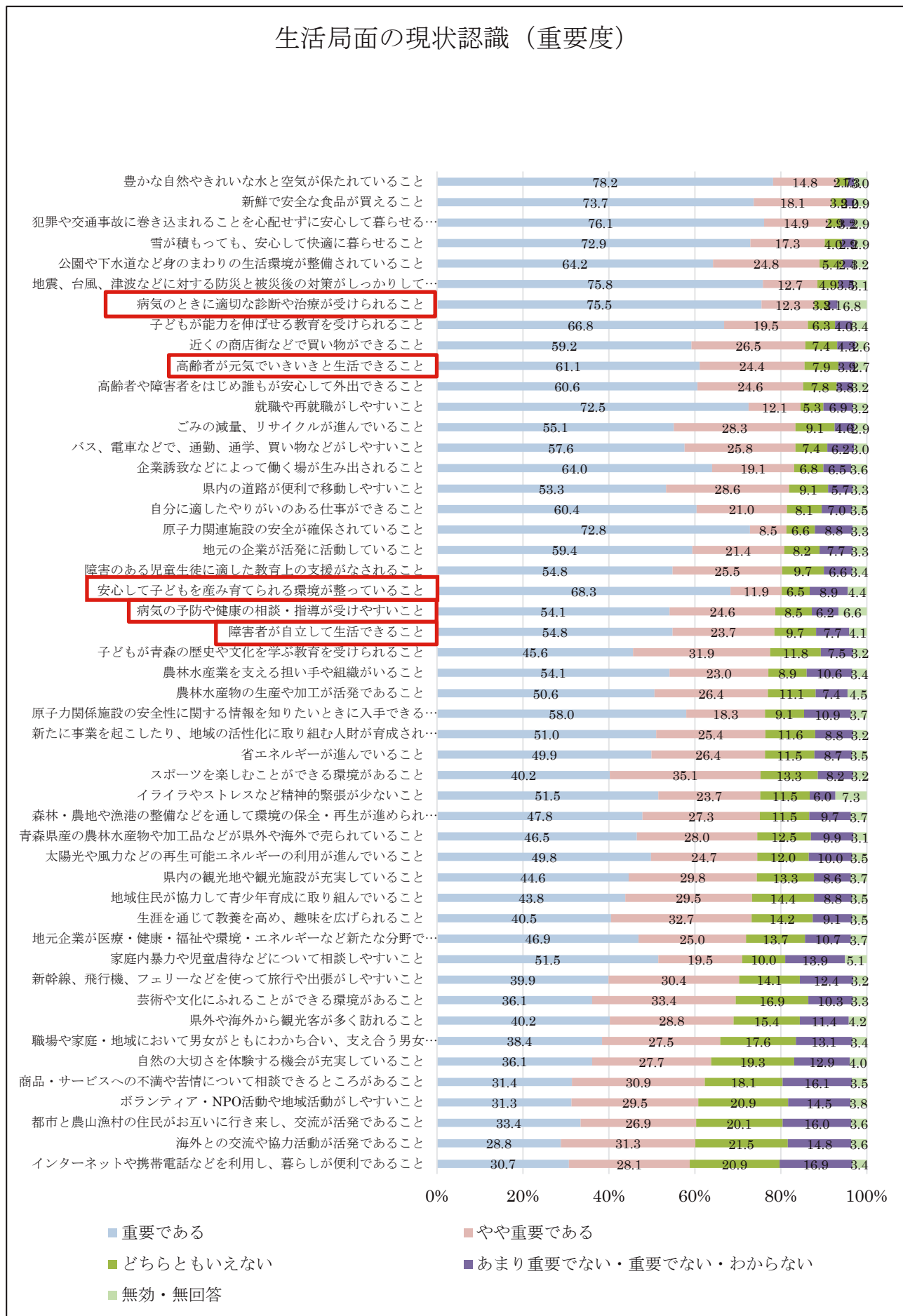


表 21 生活局面の現状認識（充足度）

